

I 実践

1 研究主題

自己有用感を高め、自他の立場や気持ちを思いやることのできる人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

- (2) 本校は、『自ら学び 心身ともにたくましく 心豊かな塙山っ子の育成』を教育目標として掲げている。それを受けて人権教育では、子どもたちに正しい判断や豊かな情操を養い、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育を進めることを目標としている。

そこで、児童一人一人が日々のいろいろな人とのふれあいや多くの体験活動を通して、自分や他の人々の気持ちを考え、互いに尊重し合うことが大切であると理解し、そこから思いやりの心が自然と育てられるように本主題を設定した。

(3) 研究内容

ア 豊かな体験活動

人権スローガン運動・あいさつ運動・異文化交流・異学年交流・JRC 登録式・福祉体験

イ 人権に関する作品の応募

人権メッセージ 人権啓発ポスター

2 実践内容

(1) 人権メッセージ

各学年の実態に応じて、全校児童が取り組んだ。低学年は家庭に持ち帰り、保護者と一緒に人権について考えた。中・高学年は道徳科等の授業を通して、一人一人が人権について自分の体験を振り返り、自分の思いをメッセージにした。授業の中で活用し、友達や家族との関わりで感じる気持ちや、命の大切さ、自分らしさ等について友達の作品から学び合えるようにした。この活動を通して人権意識を高めることができた。

(2) あいさつ運動

計画委員会を中心にあいさつ運動を実施した。5月～6月に高学年、11月に低学年によるあいさつボランティアを募った。多くのボランティアが集まったおかげで、登校時に正門前、裏門前、大階段前の3カ所に分かれて活動を行うことができた。相手に伝わるあいさつを意識しながら一生懸命に取り組む様子が見られた。はじめの頃は、恥ずかしがっていたボランティアメンバーもだんだんに声をそろえて、登校する子供たちや地域の方々へのあいさつができるようになってきた。あいさつの意識と子供たちの活動に対する意欲向上に繋げることができた。

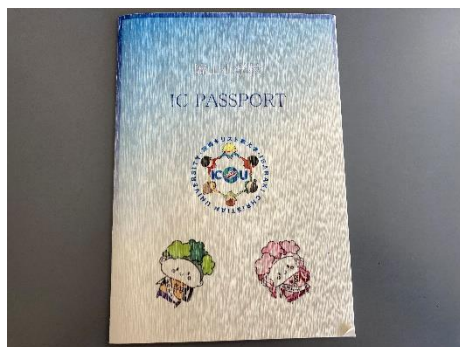


(3) 異文化交流

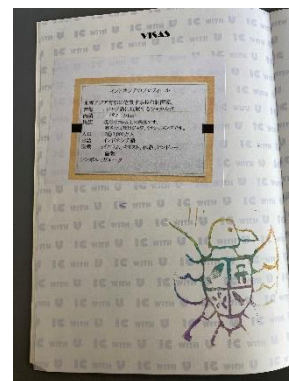
6年生の総合的な学習の時間を活用して、茨城キリスト教大学の学生及び留学生と「IC with U プロジェクト」を行った。外国の文化を学生から実際に学んだ。参加してくださった国は「インドネシア・キルギス・ドイツ・フィリピン・ベトナム」であった。茨城キリスト教大学のご協力で、空港での出入国を見立てるために、会場となった体育館に国境線を貼り、オリジナルのパスポートを用意してもらった。コロナウイルス感染症の影響で、現地の留学生の参加は、リモートとなったが、実際に外国の方から各国々の異文化を学ぶことで、「このような文化を知って、ぜひ現地に行ってみたい!」、「日本と似ている文化があって面白かった」、「他の学年にも異文化を知ってほしい!」といった子供たちの感想があり、異文化を知る貴重な機会となった。



学生との交流



実際に使用したパスポート



入国印と国のプロフィール

3 成果

- (1) 人権メッセージの取り組みや人権コーナーを設けることで普段何気なく考えている人権について意識化することができた。
- (2) あいさつ運動や異学年交流等を通して、上級生が自然と下級生に心配りをし、下級生は上級生に親しむ様子を見ることができた。普段の生活でも、上級生が下級生と遊んだり、声をかけ合ったりする場面も見られるようになった。
- (3) 今年度はコロナ禍で、人と触れ合う活動や集会が制限されたが、その中でも児童はできることを探し、映像を使ったり、屋外で行ったりするなど工夫した活動になった。

II 今後の課題

子供たちの人権感覚を高めていくには、教職員の人権意識の高揚も不可欠である。校内研修などをさらに充実させて、継続的に人権感覚を養っていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

